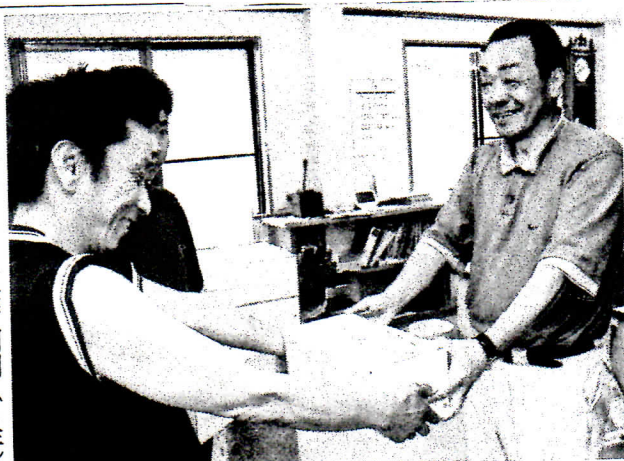


災害用備蓄品セット

賀田町第6自治会 白い小箱24箱購入

尾鷲市賀田町第6自治会(榎本和也会長)は24日、災害時の避難生活などに対応した災害用備蓄品セット「白い小箱」を24箱購入した。白い小箱は津波避難場所に指定されている賀田区避難所(海抜



ゆめ向井工房(左)から「白い小箱」を受ける榎本和也会長(24日、尾鷲市賀田町の榎本組で)

(平成23)年11月から公立高校や自主防災会を中心に4年間で約2万個を販売している。学校や避難所、家庭などでの備蓄で災害時に利用されるほか、他地域が被災した場合には支援物資として提供。

保管期間(3年)を過ぎたものは回収してフイリピンなど発展途上国の食糧支援で使用される。

尾鷲市での購入は矢浜と泉の自主防災会、市、九鬼町内会、ビジョン早田実行委員会に

続く6団体目。

同自治会では全会員24世帯が津波浸水域にあり、毎年防災意識の高揚のため各戸に防災用具を配布することが恒例になっている。春まで会長を務めた大川善土さんの発案で白い小箱購入を進めていた。今年4月の総会で他の被災地支援にも活用できることが評価され、全会一致で購入を決めた。

ダンボールの白い小箱(縦33センチ、横17センチ、高さ13・5センチ)にはアルファ米やパン、2リットルの飲料水、氷砂糖、ウエットティッシュなど6種類の災害物資が入っており、裏面には災害用伝言ダイヤル(117)の情報が掲載され、非常用の簡易トイレにもなる。

この日は小箱の詰め込み作業を受け持った障がい者支援多機能型事業所「ゆめ向井工房」の生活支援員山本奉子さんと通所者ら3人が同町を訪れ、榎本会長に手渡した。榎本会長は「津波や土砂災害で孤立する恐れがあり、救援が受けられるまでの3日間自助共助で耐え抜くために活用したい」と話し、山本さんは「地域の安全、安心に貢献できることが通所者にとっても励みになっていく。多くの地域に白い小箱を届けたい」と話していた。

白い小箱についての問い合わせは同機構(059-3288-5345)へ。